

地方創生推進交付金 対象事業 効果検証

■懇談会委員の事業評価

事業名	事業の評価	事業の総括について	
		事業の取組内容や進め方等について (良い点や改善点等)	今後の事業展開等について (事業発展のための方策やアドバイス等)
藤井寺市地域経済循環モデル創造事業	総合戦略のKPI達成に有効であったが、一部課題も見受けられる	<ul style="list-style-type: none"> ・FRAPを中心とした商品開発、情報発信、イベントなどが着実に成果をあげており、また自立化に向けた勉強会も着実に進められており、成果が期待される。 ・ターゲットを絞って取り組む事、他業種の事業者や地元企業が連携して企画運営する事は良いと思う。 ・観光に訪れる方の年齢層はターゲットよりも高いのが実状なので、世代の幅を少しずつでも広げていけば良い。 ・事業内容の内、オシャレなまち藤井寺という地域イメージ発信には寄与したと思うが、イベント収益が大部分で市内消費の促進や市経済循環にはあまり寄与できなかったとは思えない。 ・自走メンバーへの参画事業者1名という結果からも、出発点でのビジョン設定やメンバー選考等戦略的に反省が多い事業であった ・羽曳野市、堺市や近隣自治体ともより密に連携して、世界遺産の活用をもっと議論すべき。 ・市の経済循環モデル創造という目的を達するに不可欠な「求心力・影響力」を醸成するために踏むべき段階が、少々抜け落ちている感が否めない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、取組みも中断せざるを得ないであろうが、長い目で見た支援が必要。 ・FRAPから一般社団法人に至る成果を吟味した上で、改めてビジョン策定し戦略を組むべきだと思う。 ・藤井寺市の事業の真性が求められる。市が目指す地域イメージが明確でなく、市民に浸透していない。 ・地元商工会、商業施設(イオン等)とも連携したイベントの定期開催 ・ハレマチビヨリ等各種イベントの対外告知をより広範に知らしめる工夫が必要ではないか。 ・「乱立する発信力」の競争と協調のプロセスを経て、影響力を備えた政策モデル創造部隊を編成することが急務であろうと考える。
藤井寺市まちなか創業支援事業	総合戦略のKPI達成に有効であったが、一部課題も見受けられる	<ul style="list-style-type: none"> ・創業セミナー、創業スクールともに新規創業に長い目で見て成果が期待できる取組みとなっている。 ・女性をメインターゲットとして相応の参加者につなげることができた。また、きめの細かい講師による指導が行われているのが良い。 ・1年に1回の実施なのは機会提供としては心もとない。年3~4回程度の機会提供とし、より創業につながる内容を検討すべきだと思う。 ・商店街で実際に求めている業種は何なのか、空き店舗対策の難しさなど、ワークショップを開催して地域連携を強化した方が効果的ではないか。 ・オシャレやセンス、といったワードが並ぶ。これら「排他性リスクを孕む概念」を選定基準に盛り込む意味がわからない。事業者誘致・創業者支援双方において、主眼はそこではないはず。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、取組みも中断せざるを得ないであろうが、長い目で見た支援が必要。 ・ターゲットニーズを実感できる機会の提供や創業に向けたファンづくりの場所を提供する。また、創業後の広報支援体制の構築も有効だと思う。 ・創業して、継続して営業できるイメージを持ってもらう必要があるのではないかと感じた。創業支援とともに、地元活性化、リピーター顧客が定着するような仕組みや取組、(商業施設や商店街の場所の一面を市が借り上げる等)の必要もあるのではないかと感じた。 ・「ターゲット選定」を骨組み段階で先行議論してしまったことが問題だったような気がします。